

学ぶ力の向上につながる 学校の実践事例



平成31年2月

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

◇はじめに

本冊子は、県内の小中学校において、全国学力・学習状況調査の結果の分析から各校の課題を明らかにし、学力向上や学習状況の改善を図った取組や、学習指導要領改訂の移行期間として取り組まれている実践など、滋賀の子どもたちの学力の向上に向けた各学校の取組を紹介し、県内全域に広めようとするものです。

◇学ぶ力の向上につながる学校の実践事例

学ぶ力の向上に向けて、次の①から⑩の視点において、効果的な取組を実践されている学校を紹介します。各学校の「学ぶ力向上策」の改善検討に活用してください。

①教員全員が参加する校内研究会の工夫

近江八幡市立老蘇小学校

1 ページ

②教科の指導力を高める校内研究の実践

東近江市立能登川中学校

3 ページ

③目指す資質・能力を明確にした授業改善

～学級活動と算数科の学びをつなぐ授業づくり～

大津市立長等小学校

5 ページ

④基礎的・基本的な知識・技能の定着のための補充学習の取組

長浜市立長浜北小学校

7 ページ

⑤総合的な学習を軸とした教科等横断的な学習の推進

高島市立安曇小学校

9 ページ

⑥メンター制を取り入れたOJTと校内研究の連動

栗東市立栗東西中学校

11 ページ

⑦幼小合同研究会・研修会の実施による幼小連携の推進

竜王町立竜王幼稚園・竜王小学校

13 ページ

⑧子どもが主体的に学習するための環境づくり

湖南市立下田小学校

15 ページ

⑨家庭学習の習慣化を目指した取組

草津市立老上中学校

17 ページ

⑩特別活動を通じた主体的・対話的で深い学びの実現

東近江市立御園小学校

19 ページ

1 教員全員が参加する校内研究会の工夫

☑ 校内研究会を工夫して研究協議を深めます

限られた時間で効率よく校内研究会を進め、意見交流などを通して研究協議を深めていくためには、教員が同じ視点をもって取り組んでいく必要があります。協議の方法や時間の設定に、ひと工夫しています。

ココを学びたい！

ポイント1 参観や協議の視点を明確にした研究授業

授業を参観して、何を見ればいいのか？

- ・事前に授業参観の視点(協議のポイント)を明確にしています！
- ・事前に授業参観における役割分担を明確にしています！



ポイント2 授業をもとに全員が語り合う研究協議会

全員が意見交流をするには、どうすればいいのか？

- ・できるだけたくさんの教員とグループ協議ができるよう工夫しています！
- ・効率よく協議を進めるために、時間設定を明確にしています！



	近江八幡市立老蘇小学校
学級数	8学級
児童数	137名



【近江八幡市教育大綱 基本理念】

「子ども」が輝き「人」が学び合い ふるさに愛着と誇りをもち 躍動する 元気なまち 近江八幡

【近江八幡市立老蘇小学校 学校教育目標】

自分や友だちを大切にしながら 進んで学び 力を合わせてやり抜く子

○学校の特色ー「学力向上『三』づくり」

授業づくり

言語活動をさらに充実させ、課題解決学習の四段階を通して、思考力・判断力・表現力の向上をめざした授業づくり など

学習環境づくり

興味もてる、振り返りができる、努力がわかる、教室や廊下の環境づくり

学習習慣づくり

学習ルールの定着や家庭学習の習慣、読書習慣、基本的な生活習慣づくり



研究授業が始まります！楽しみにしている生活科の時間です！

第1学年生活科 単元名：「つくろう あそぼう」
 本時の目標：
 秋のものを使った遊びやおもちゃで、どうすればもっと楽しく遊べるかを考え、工夫しながら、楽しく遊ぶことができる。

ポイント1の具体的な取組



すべての学校で実践できます！

○授業参観の視点（協議のポイント）の明確化

どのような視点で授業を参観するのか、研究協議会で協議するポイントは何かを明確にし、教員が目的意識をもって授業参観に臨んでいます。



○授業参観における役割分担の明確化

この授業では、おもちゃづくりをする活動を設定しているため、児童が動き回り、様々な発言をすることなどが予想されます。

そこで、事前に各教員が担当するグループを明確にし、児童の活動の様子やつぶやきなどを詳細に記録しています。



ポイント2の具体的な取組



観察した記録をもとに、小グループで教員が意見を交流

○協議を深められるよう「えんたくん」を活用

授業参観の記録をもとに、研究協議会で意見交流を進めていきます。それぞれが発言するだけの協議会にならないよう、「えんたくん」を活用してグループを変えながら協議を繰り返すことで、教員ができるだけたくさんの意見を交流できるよう工夫しています。全員が盛んに意見を述べ合う様子が見られます。



「えんたくん」とは、会議などのために考案された直径1メートルほどの円形ダンボールのことで、4～6人のグループが円座し、意見交流をしながら自由に気付いたことなどを書き込んでいきます。参加者が向き合って、気軽に対話できるツールとして、注目・活用されています。
参考：『えんたくん革命』川嶋直・中野民夫（みくに出版）

10分	挨拶&授業者より
50分	研究協議 ・「えんたくん」協議 8分×4 ・全体発表 4分×4
40分	指導助言 ・市町教育委員会 10分 ・県教育委員会 30分

○時間設定を明確にして研究協議会を設定

限られた時間で効率よく協議を進め、意見交流を深めるために、事前に時間設定を明確にして進行を計画しています。グループ別協議で交流した意見を発表する時間をゆったりと設定することも大切です。

事前確認シートの指示により、指導助言の時間を40分確保しました。

教員全員が積極的に意見を交流し合うことを目的として、「えんたくん」というツールを取り入れています。
 校内研究会の充実のためには、こういった工夫を取り入れながら、全員参加の協議会を継続的に開催していくことが大切です！



2

教科の指導力を高める校内研究の実践

✓ コアティーチャーが中心となって、校内研究を活性化させています

教科を中心として学年の枠を越え、全教師が主体的・対話的で深い学びの視点を共有し、授業改善の取組を進めています。

ココを学びたい！

ポイント1

生徒の学びの質を向上させるための授業改善

主体的・対話的で深い学びを生み出す授業の工夫

・「め・じ・と・ま」(めあて・自分で学習・共に学ぶ・まとめ)の「と(共に学ぶ)」を充実させることで、生徒に「できた」「わかった」という実感をもたせる。

ポイント2

学年の枠を越えた研究授業、研究協議会を実施

・研究授業、研究協議会では、外部の研修などで得た情報を教師間で共有し、指導力の向上を図る。

計画的に校内研究を行い、授業と研修をつなぐ役をコアティーチャーが担っています。



	東近江市能登川中学校
学級数	23学級
児童数	650名



○学校の特徴

「授業での取組」

- ・コアティーチャーを核とした「主体的・対話的で深い学び」の視点からの研究と実践
- ・『主体的・対話的で深い学び』を推進する授業の在り方～アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善により、生徒のたくましく生きる力をはぐくむ教育をめざして～」を研究テーマとして授業改善・工夫を図っています。
- ・道徳教育の充実(授業公開・教科化に向けた研修)

「学校全体の取組」

- ・個に応じたきめ細やかな学習指導
- ・すべての学習の基礎と国語力の向上
- ・学ぶ習慣の確立と学びの機会の充実

※ 平成30年度中学校授業改善推進加配(コアティーチャー)事業(県教育委員会指定)
 ※ 東近江市「三方よし授業改善ベーシックプラン」をもとに授業改善を進めています。

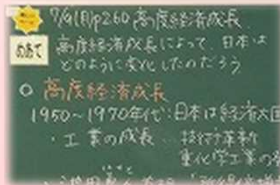
ポイント1・2の具体的な取組



「め・じ・と・ま」の様子

【めあての提示】

本時で付けたい力を明確にし、まとめにつながる「めあて」を設定しています。



【自力解決(自分で学習)】

困っていたら、授業者が適切な手立てをアドバイスします。

まずは、自分でじっくり考えることが大切だね。



「自力解決」と「友だちとの交流」の時間を確保し、活動を往還させています。

【友だちとの交流(共に学ぶ)】

話し合い活動により、考えを深めたり広げたりしています。

そういう考え方もあったんだね！



【まとめ(学習の振り返り)】

「まとめ」の時間を確保し、教科の特性に応じたまとめの方法を実践して理解度・到達度を確認しています。

授業の中で活動を往還させ、意見や考えを何度もやりとり・交流することで生徒の「できた」「わかった」が増えます。



研究協議会の様子

【効果的な研究協議会】

- 毎学期、コアティーチャーが提示する「力点」をもって、公開授業を行っています。
- 公開授業後、教科を中心に参観者とミニ研究協議会を行っています。



授業を参観して、子どもの姿や手立て等を、付箋に記入する。

「主体→対話→深い」の順で、発表しながら付箋を出し合い、グルーピングをする。



〇〇の場面で△△さんのつぶやきは・・・

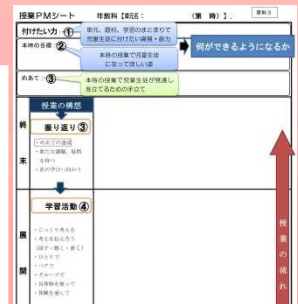
タイトルを記入し、関連するところを線でつなぐ。



他の教科の実践は、自分の教科でも活用できそうだ！（発見）

コアティーチャーの研修会でいただいた資料を紹介します。（情報共有）

- ☆学習指導案(様式例)
(県教育委員会作成)
- ☆授業PMシート
(大津市教育委員会作成)



授業PMシート(プロセスマネジメントシート)
※授業構想時に使用します。

【授業と研究協議は緊密な関係です。】

- 公開授業・研究協議を通して学んだこと、これから取り組んでいきたいことを発表し合います。
- コアティーチャーや複数の教師の授業を参観し、自分の授業に生かします。

個人

- 空き時間に担当教科や他の教科の授業を参観する。
- 校内外で得た研修内容を他の教員と共有できるよう、記録を取っておく。
- 研修で学んだことを実践してみる。

全体

- 年3回以上、全教員が授業公開、授業参観を行う。(コアティーチャーが日程調整)
- 授業参観や研修等で得たことを交流。
- 意見交流をし、実践内容の結果を検証する。
- 研究会の報告を、サーバーに保存し共有する。

3

目指す資質・能力を明確にした授業改善 ～学級活動と算数科の学びをつなぐ授業づくり～

✓教科等横断的な視点を持ち、授業改善に取り組んでいます

目の前の子どもに必要な資質・能力は何か、その育成のために授業はどうあるべきか。考えた結果、見えてきた授業づくりの手がかりは、学級活動でつちかった力を教科の授業づくりに生かすことでした。

ココを学びたい！

ポイント1

学級における話し合い活動の流れを生かした
算数学習（長等スタンダード）の確立

学級活動の流れと算数科の学習のプロセスの共通点から

- ・算数科の授業の基本的な流れや板書、ノートのとめ方を統一
- ・主体的・対話的で深い学びを実現するための手立ての共有

ポイント2

教科横断の視点を生かした授業の質的改善を目指す授業研究会

学級活動、算数科の学びが相互に影響し合う授業づくり

- ・全教員が、授業研究会の前の週に、当該学級の学級会の授業を参観
- ・学級会での姿を念頭に置きながら、算数科の授業について協議

長等小学校では、「伝え合い、ともに学び合う長等の子を求めて」を主題とし、研究に取り組んで3年目になります。

特活でつちかった力を教科の学習に生かすことで、子どもたちが主体的、協働的に学び、考えを伝えたり聞いたりする力やみんなで問題を解決しようとする姿勢を育てたいと全教員で取り組んでいます。



	大津市立長等小学校
学級数	26学級
生徒数	634名



○学校の特徴

「授業での取組」 CAP - Dのサイクルを生かす

その年度の取組の重点を決定する際には、前年度の研究の成果と課題を分析すること（C）から始めます。それをもとに、改善策や計画を考え（AP）実践する（D）というサイクルを積み上げ、育成を目指す資質・能力の実現を目指しました。

「学校全体の取組」 教員が教科横断の視点をもつ 研究を広げ深める

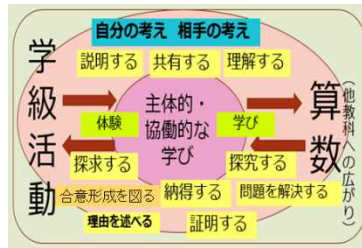
校内研で算数科の授業を参観する前の週に、全教員が当該学級の学級会を参観するようにしました。また、算数科の事前授業には、当該学年の教員や「学ぶ力を高める部会」のメンバーのほか、希望者も参加できるよう、体制を整えました。また、今年度からは事後研究会も実施しています。

※平成28年度 学級活動スキルアップ事業（県教育委員会指定）

※平成29年度 主体的・対話的で深い学び推進事業（県教育委員会指定）

※平成30年度 学びの質を高める学校改善事業（県教育委員会指定）

◆学級活動と算数科の学習の関係を整理



【スタンダードⅠ】授業の基本的な流れ

学級活動(1)

- ①出し合う②比べ合う③決める(まとめる)

学級活動(2)(3)

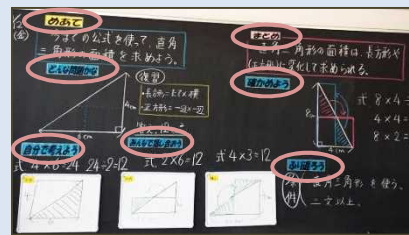
- ①つかむ②さぐる③見つける④決める(意思決定)

算数科

- ①つかむ②さぐる③見つける④まとめる⑤確かめる⑥ふり返る

【スタンダードⅡ】板書とノート指導

- ・板書とノートへのまとめを連動させて指導する。



→授業の流れを示すカードを板書で利用。このカードに沿って、ノートをまとめる。

【スタンダードⅢ】話し合いの活性化

<共通実践事項>

- ・話し合いは3人グループで行う。
- ・自己評価がDの子から話す。
- ・ノートやホワイトボードに考えをまとめ、発表で用いる。

<留意点>

- ・話し合いの観点を明らかにする。
- ・グループでの話し合いの必然性について、事前によく考える。(必要ない場合、適切でない場合もある)

自己評価してみよう

- A 式や方法〇 説明〇
- B 式や方法〇 説明△
- C 何となくわかる
- D こまっている

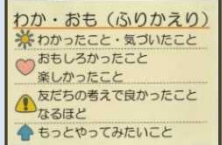
【スタンダードⅣ】めあてとふり返り

<めあて>

- ・既習事項と関連づけて、できるだけ子どもから言葉を引き出し、めあてとする。

<ふり返り>

- ・必ず授業の終わりに時間を確保する。
- ・ふり返りの視点(わか・おも)を示し、記述させる。
- ・キーワードを使う、行数、文字数を指定する等の条件に合わせた記述を求めることもある。



◆「算数プランシート」の作成と活用

「活動あって学びなし」の授業にならないよう、授業の構想を順に示したプランシートを作成する。

<プランシートに示された項目>

- ①本時のねらい ②ねらいを達成した子どもの姿 ③評価問題 ④まとめ
- ⑤想定している比較・検討(取り上げたい考え) ⑥学習のめあて ⑦学習課題

◆3段階+1の授業研究会

1 事前研究会

【学年、学ぶ力部員、希望者】

- ・算数科の指導案検討
- ・事前授業参観と分析

2 全校授業研究会【全教員】

3 事後研究会【学年、希望者】

- ・改善授業の参観と分析



学級会の参観

- ・全校授業研究会の前の週に、当該学級の学級会を全教員で参観する。
- ・学級や児童の様子、学級会での学びを事前に把握し、全校授業研究会に臨む。

学級会でつちかった、協働的に課題を解決する姿勢が生かされているか。

算数
(授業づくり)

算数科でつちかった、物事の本質を捉える視点が活かされているか。

学級会
(集団づくり)

4

基礎的・基本的な知識・技能の 定着のための補充学習の取組

☑できるまで繰り返し取り組むことが大切です

全国学力・学習状況調査や市の基礎学力調査の結果を分析し、学校としての課題を明らかにしたうえで、子どもたちに具体的な達成目標をもたせ、「わかるまで」「できるまで」を合言葉に、あきらめず繰り返し取り組むことを大切にして基礎基本の定着を図っています。

ココを学びたい！

ポイント

「付けたい力」を明確にした補充学習

～かけ算の定着、書く(考えて答える)力の育成～

○朝のキラキラタイム・昼休みのかけ算特訓教室

- ・間違い直しの徹底(わかるまで、できるまで)
- ・具体的な目標の設定(90秒35問以上)
- ・家庭学習とも連動させ、保護者の協力を得る

○めあてを意識した家庭学習の取組

- ・「学年×10分」の取組(音読カードに学習時間を記入)
- ・めあてと付けたい力を明記した「家庭学習の手引き」の活用



学校としての課題を明らかにして付けたい力を絞り、具体的なめあてをもたせることを大切にした取組を進めています。

長浜市立長浜北小学校	
学級数	28学級
児童数	810名



○学校の特徴

笑顔で10分間運動

運動に親しみ生涯にわたって体を動かす児童の育成

書く力を伸ばし、一人ひとりの違いを大切に授業

子どもが話す時間延べ15分の授業をめざす

特別支援教育・外国人児童教育の充実

個別の指導計画の効果的活用・在籍学級での学習をめざした日本語指導言語環境の充実(詩・名文の暗唱、廊下掲示「言葉の小径」、100マス作文等)

※平成28年度 主体的・協働的な学び推進事業(県教育委員会指定)

※平成29年度 主体的・対話的で深い学び推進事業(県教育委員会指定)

ポイントの具体的な取組



全教員がねらいを共通理解し、全校体制で取り組んでいます。

思ったことをわかりやすく書くぞ。

○「朝のキラキラタイム」(毎朝8:25～8:35)

・朝のキラキラタイム(月木:読書 火:計算 水:読み聞かせ 金:作文)



自分で答え合わせをし、間違ったところがどこか確認し、間違えないようになるまで何度も繰り返して取り組みます。



お題を設けた100マス作文に継続して取り組むことで、「考えて答える力」を育てます。

やったあ合格した。

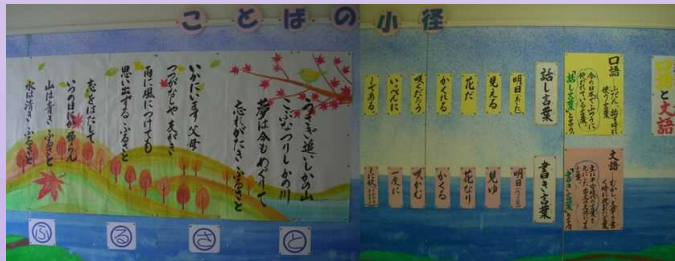
○昼休みの「かけ算特訓教室」の取組

- ・3・4年生が参加(2学期)、3学期からは2年生も参加する。
- ・5・6年生は、割り算教室を実施する。
- ・90秒で50問中35問クリアできるまで繰り返し取り組む。

設定された目標に向かって、休み時間や家庭でも練習して臨みます。保護者会で、子どものがんばりや取組の成果を伝えながら、家庭での協力を呼びかけています。



※言葉の小径



みんなが通る廊下に、慣用句、川柳、詩等の掲示を充実させ、学力のベースとなる言語環境を整えています。

○家庭学習「学年×10分」の徹底

・「家庭学習の手引き」を毎年改定、内容改善

・音読カードに学習時間を記入、担任と家庭で共有

学年毎のめあてと時間を明記

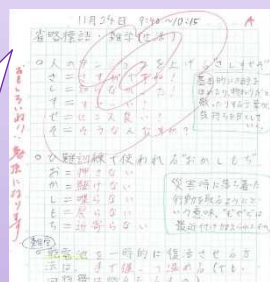
ひくいしっか家庭学習		長浜北小学校				
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年
めあて	学年の目標をつける	最後までがんばりきる	挑戦を印する	そろそろ自主学習ができる	進んで自主学習ができる	自主学習で学年を突破する
学習時間	10分以上	20分以上	30分以上	40分以上	50分以上	60分以上
つけたい力	1年生 ○簡単な字を正しく書ける。 ○「し」「に」に気をつけて、大文字で書ける。 ○「の」の横、カマを正しく書ける。 ○「は」「へ」「を」を正しく書ける。 ○自分の名前が書ける。 ○自分の住所が書ける。	2年生 ○2年生の漢字が全て読める。 ○自分の書いたことを読み返して訂正する。 ○自分の名前が書ける。 ○自分の住所が書ける。	3年生 ○3年生の漢字が全て読める。 ○自分の書いたことを読み返して訂正する。 ○自分の名前が書ける。 ○自分の住所が書ける。	4年生 ○4年生の漢字が全て読める。 ○自分の書いたことを読み返して訂正する。 ○自分の名前が書ける。 ○自分の住所が書ける。	5年生 ○5年生の漢字が全て読める。 ○自分の書いたことを読み返して訂正する。 ○自分の名前が書ける。 ○自分の住所が書ける。	6年生 ○6年生の漢字が全て読める。 ○自分の書いたことを読み返して訂正する。 ○自分の名前が書ける。 ○自分の住所が書ける。

低・中・高学年別に「つけたい力」を明記



毎日記入することで意識が高まります。また、学校と家庭ががんばりを把握することもできます。

4年生以上は、手引きを基に、工夫して自主学習に取り組めます。コメントを書いて返すなど、励みとなる評価を心掛けています。



5

総合的な学習の時間を軸とした
教科等横断的な学習の推進
 総合的な学習の時間と教科の学習とをつなぐ
取組を進めています

総合的な学習の時間において、国語や算数等、教科の学習での学びを活用する場面を設定し、子どもたちの学びの定着を図っています。

ココを学びたい！

ポイント1

つながりが見える年間計画の作成

調べる場面やまとめる場面等で教科の学びを活用

- ・総合的な学習の時間における調べ学習やまとめる学習の中で、教科の学習で学んだことを活用できるよう計画を作成しています。
- ・子どもたちがそれまでに身に付けてきた知識・技能を積極的に活用・発揮できるような授業づくりを心がけています。

新学習指導要領で求められる「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、「総合的な学習の時間」等を軸としたカリキュラム・マネジメントが重要になります。

ポイント2

自分の学びを発表する場の確保

一人ひとりが自分の学びを表現する方法を選択

- ・壁新聞や紙芝居、ICT等、自分の学びを表現する方法を選んで発表しています。



	高島市立安曇小学校
学級数	15学級
児童数	356名

【学校教育目標】

じょうぶで がんばる やさしい子
豊かな心と自ら学び考える意欲をもち
心身ともにたくましい安曇っ子の育成

○学校の特徴

小中一貫教育の実践

- ・小中学校の教職員を6部会に分け、各部会で、授業公開、情報交換等を行い、課題に基づいた共通実践を行っています。
- ・小中学校共同研究により、小学校6年生で3小学校合同学習を行い、中1ギャップの解消および学習意欲の向上を図り、小学校から中学校への滑らかな接続を目指しています。



安曇川から学ぶ「リバー活動」

- ・「全校リバーウォッチング」では、異年齢集団によるいかだ遊びや川流れなどの遊びを通して、安曇川への愛着を育むとともに、安曇川のイメージを培います。
- ・「学年リバーウォッチング」では、総距離60km弱の安曇川を、6年かけて踏破することを通して、体力と忍耐力を養います。また、その過程で、子どもたちが自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育成することを目指します。

ポイント1の具体的な取組

○調べる場面やまとめる場面等で教科の学びを活用

安曇小学校5年生の「総合的な学習の時間」の1学期の単元名は「地域のよさを見つけよう」です。そのために、リバー活動や福祉体験、田植えに取り組みます。それぞれの取組の後に、毎回書く「活動報告書」は、国語科「次への一歩 活動報告書」での学びを生かして書きます。

こうすることで、教科の学びが活用・発揮され、確かになっていきます。



↑ 5年生のリバー活動。田んぼの水がどこから来たのか、調べた結果を活動報告書にまとめます。

平成30年度 高島市立安曇小学校 5年生 「総合的な学習の時間」年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生きる力を育む学習活動	【学年テーマ】 地域を再発見										
	【育てる力】 ふるさと安曇川町の「よさ」を見つけ、その要因を調べ追究することができる。										
	単元名「地域のよさを見つけよう」2.5時間 内容：リバー活動、福祉体験、田植えを通して、安曇川の「よさ」を見つける。			単元名「地域のよさを追究しよう」3.0時間 内容：自分が見つけた安曇川の「よさ」について調べ学習を進めること、「よさ」の要因を追究する。				単元名「地域のよさを発信しよう」1.5時間 内容：追究したことをまとめて安曇っ子博物館で発表する。			
	<ul style="list-style-type: none"> ○ミニリバーで、米作りに必要な水がどこから来ているのかを探り、リバー活動につなげる。 ○リバー活動で、安曇川の水を守るための施設を見学する。 ○車いす体験で、足の不自由な方の不便さを体験する。 			<ul style="list-style-type: none"> ○稲刈りやもちつき体験を通して、木作りのお力や喜びについて考える。 ○自分の考える「地域のよさ」について、本やインターネットで調べる。 ○「達人の日」に講師の方に質問することで、自分の課題について追究する。 				<ul style="list-style-type: none"> ○地域のよさが伝わるように「安曇っ子博物館」で発表する。 ○学年テーマ「地域を再発見」についてふりかえる。 			
	社会「米作りのさかんな地域」 →米作りでの水の大切さを捉える。	国語「次への一歩-活動報告書」 →それぞれの活動について報告書で自分の考えを書く。	算数「割合」 →調べたりインタビューした結果は、割合を計算して表やグラフに表す。	国語「グラフや表を用いて書こう」 →本やインターネットから表やグラフを引用し、自分の考えを書く。	国語「新聞を読もう」 →学んだ記事の書き方などを生かして、追究したことを壁新聞にまとめる。	国語「すいせんしず」 →発表内容や構成を考えてスピーチメモを作成し、効果的な発表の仕方を考える。					
	【まとめの方法】 それぞれの活動について事実と考えを区別して報告書にまとめ、自分の考える安曇川のよさを見つける。			【まとめの方法】 追究した「安曇川のよさ」を、グループで壁新聞にまとめる。その際、必ず表やグラフを引用して自分の考えを書く。				【まとめの方法】 スピーチメモを作成し、効果的なスピーチの仕方を考えて発表する。			
	【ガイダンス】 何を学ぶのか どんな学習をするのか 1年間何を追究するのか	地域のよさを見つけるために、リバー活動や車いす体験、田植え等を行う。	それぞれの活動について活動報告書にまとめ、地域のよさを見つける。	自分が見つけた地域のよさの要因を、どのように調べればよいか、考える。	自分の考えを伝えるための表やグラフを作ったり、本やインターネットから探す。	調べ学習で出た疑問について「達人の日」に質問し、さらに追究する。	同じテーマをもつ仲間と相談しながら、追究したことを壁新聞にまとめる。	スピーチメモをもとに、調べたこと、追究してきたことを発表する。			

総合的な学習の時間のねらい・内容

つながりの見える化

教科等の単元名・内容

ポイント2の具体的な取組



↑ 安曇っ子博物館での発表。1年間の研究成果を他学年の児童や保護者等に説明します。

○一人ひとりが自分の学びを表現する方法を選択

毎年1月に、各教室や展示ホール等校舎全体を活用して、感動体験発表会「安曇っ子博物館」を行います。

子どもたちは、1年間の研究成果を「学芸員」として、壁新聞や紙芝居、ICT等、それまでに学習した様々な方法から選んで発表します。

全校児童はもちろん、保護者や地域の方も招待して、ポスターセッション形式で繰り返し発表することが、研究内容の更なる理解や自信につながり、次年度の探究への意欲となります。

6

メンター制を取り入れたOJTと校内研究の連動

☑ 若手からベテランまで、全員の実践力の向上を図っています

メンター制を取り入れたOJTと教科の壁を越えた校内研究を連動させることによって、若手からベテランまで、全ての教員の実践力が確実に向上することを目指しています。

ココを学びたい！

OJT(On the Job Training)とは…

職場での日常の業務遂行を通じて、必要な資質能力を意図的・計画的・継続的に育成すること。

校内での「学び合い」や「高め合い」

メンター制とは…

知識や経験の豊かな先輩教員(メンター)が若手教員(メンティー)の仕事における不安や悩みの解消、業務の指導・育成を担当すること。

ポイント1

メンター制を取り入れたOJT ～学び合い、高め合う教員集団～

ベースチーム(学年会)とメンターチーム(1～4年目の若手教員と校内研修リーダーのグループ)を中心とした人材育成

以前より学校全体で若手教員を育てる意識が高まりました。また、ベテランも若手も学び合うことで教員全体の実践的指導力が向上し、チームとしての組織対応力も高まっています。若手教員がミドルリーダーに成長する人材育成にもつながっています。



ポイント2

大規模中学校における組織的な授業改善の実現

教科の壁を越えた校内研究テーマの追究(共通実践事項)

本校の生徒の課題を改善するため、今年度は『“対話”を学びへ』を合言葉に、全教科等で共通した取組により授業改善を確実に進めています。



	栗東市立栗東西中学校
学級数	36学級
生徒数	1007名



○学校の特徴

(栗東西中学校HPより)

心豊かで たくましい 生徒の育成

めざす生徒像

- 共に学び、共に楽しむ生徒 (共学・共楽)
- 共に汗し、共に感動する生徒 (共汗・共感)
- 共に生き、共に律する生徒 (共生・共正)

めざす学校像(学校経営の方針)

「人間の尊厳」と「生命の尊重」の実践校

1. 人権・同和教育を根幹に置いた学校づくり
 - 基礎学力の確かな定着
 - 教師も生徒も互いに磨く人権感覚
2. 学校・保護者・地域との連携による学校づくり
 - 信頼と活力に満ちた風土の醸成

校訓:「自主自律」「不撓不屈」「協心協力」

めざす教師像

- 自ら学び続ける教師(謙虚求進)
- 一人ひとりを温かく見守り育てる教師(無限愛)
- 協力・協働により互いに高め合う教師(切磋琢磨)

※平成28・29・30年度 教員の養成・採用・研修の一体的改革推進事業 (県教育委員会指定)

ポイント1の具体的な取組



多忙感・負担感

- ・とにかく忙しい
- ・とにかく時間がない
- ・これ以上は無理！

遠慮

- ・教えてほしいけど、忙しそう…
- ・私が教えるなんて…

若手とベテランの関係

- ・どのように声をかけたら…
- ・最近の若いもんは…



若手からベテランまで
全教員が『実践力』を高める
学習を目指した校内研究

☆ 全体、教科別、学年別の授業研究会に加え、メンターチームを中心とした授業研究会

初任者研修や6年次G-OJT研修にメンター制を取り入れ、校内研究とリンクした研修課題を設定しています。この「研究」を活用した「研修」により、全教員の『実践力』の向上を図ります。

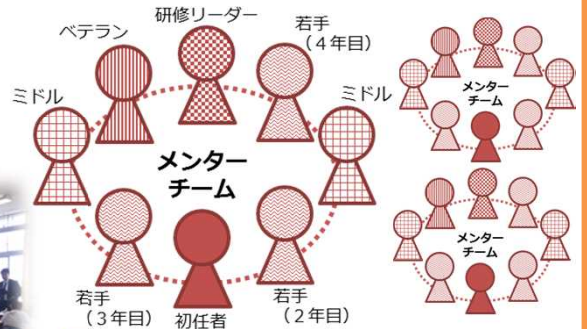
年間スケジュール

- ・ベースチーム会議（学年会議）
- ・メンターチーム会議
- ・OJT会議（月1回程度）
- ・職員会議における進捗状況の報告
- ・全体での研究授業（年3回）
- ・全教員 年1回以上の授業公開

計画的な実施により、効果が高まる



学年・教科の壁を越えた
熱心な授業研究が続く



校内で3つのメンターチームをつくっています。各チームの研修課題を校内全体で共有し、校内で一貫性のある研修を実施しています。



メンターチームは交流しやすく、指導案検討会や授業参観の中で授業の基礎・基本が学べます。



若手教員の声

他教科の授業を参観すると、自分の教科の授業にはない生徒の様子が見られ、新鮮で大変参考になりました。

取組が3年目となり、メンター制による研修を経験した先生が増え、初任者だった先生が先輩教員として初任者の指導に関わっています。

若い先生の悩みを聞き、解決策と一緒に考える中で、新たな学びがありました。互いに学び合い、高め合っています。



職員室の声

ポイント2の具体的な取組

☆ 合言葉は「“対話”を学びへ」(校内研究テーマの追究に向けた共通実践事項)

本校の学ぶ力向上に関わる課題を把握

- ・昨年度の取組や全国学力・学習状況調査等より「記述式」への苦手意識と無解答の多さに課題

課題の解決に向けた方向性を検討

- ・自分の言葉で表す対話的な活動経験の積み重ね
- ・誰もが安心して意見を言える雰囲気づくり

授業改善の具体的な取組（共通実践事項）

授業の中で **読む** **書く** **説明**

対話を学びにつなげる学習活動を取り入れる

共通実践事項の現状確認・検証・見直し

- ・日常授業の取組状況をアンケートで定期的に確認
- ・チーム会議における取組の共有と悩み相談
- ・授業研究会により取組の成果と課題を全員で確認
- ・明日からの授業改善の取組を振り返りシートへ記入



全ての教科で対話的な活動を取り入れることで、生徒の話し合う力が向上し、安心して意見が言い合える雰囲気づくりにつながっています。

アンケート結果により数値化することで授業改善が確実に進んでいることを実感します。

全教員で授業を参観し、取組の成果と課題を協議することで、明日からの全員の授業改善を促します。



7

幼小合同研究会・研修会の実施による

幼小連携の推進

✓ 幼小の教員が一丸となった合同研究を進めています

平成30年度学びに向かう力推進事業の指定校園として、幼稚園と小学校とが合同で、研究主題「子どもたちが学びに向かう力を育む保育や授業のあり方」について研究し、円滑な接続をめざしています。

ココを学びたい！

ポイント1

幼小の連携・接続のあり方

- ①互いに保育・教育を見合う。
- ②付けたい力を一緒に考える。
- ③幼小の互いのよさを知る。
- ④接続期のカリキュラムを一緒に考える。

年度当初、幼小合同の研究主題について話し合い、互いの年間計画の中に合同研究会を組み込んで、取り組みやすくしました。



ポイント2

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心にした合同研修会

幼稚園から小学校へのつながりを考える。

・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を幼小連携のための視点にする。

幼稚園教育要領等に明示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは、幼稚園でのねらいや内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿である。 【健康な心と体】【自立心】【協同性】など

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿は、到達すべき目標ではないことや、個別に取り出されて指導されるものではないことに留意する必要があります。



	竜王町立竜王小学校	竜王町立竜王幼稚園
学級数	18学級	6学級
児童・園児数	404名	107名

○学校園の特色

【竜王幼稚園】園内研究のテーマ

「一人ひとりの自信を育み、意欲的に遊びや生活を作り出す、学びの基礎の育成を目指して」

子どもたちの学びの基礎を「やりたいな！できた！もっとやってみたい！」と夢中になる体験を通して育むための保育に取り組んでいます。

【竜王小学校】校内研究のテーマ

「一人ひとりの子どもたちが、主体的・対話的で深い学びのできる授業をめざして ～話し合い活動の質を高めることによって深い学びにつなげる授業研究～」

※平成29年度

教育課程特例校(文部科学省 小学英語科4年目)

小中高系統的英語教育推進事業(県教育委員会指定)

英語パイオニアプロジェクト(県教育委員会指定)



竜王幼稚園



竜王小学校

ポイント1の具体的な取組

①互いに保育・教育を見合う

- 子どもたちや先生の様子を観察する。



【幼小の学びのつながり】

②付けたい力を一緒に考える

- 同じ校区の子どもを育てる仲間として、子どもたちにつけたい力を一緒に考える。

【参観の目的】

③幼小の互いのよさを知る

- 幼稚園と小学校の教員が互いの保育・教育の独自性やよさ、育ちを知り指導に活かす。
- 教員同士の交流をする。

④幼小一緒に接続期のカリキュラムを考える

- 幼児期の学びや育ちを見ることで、一人ひとりを丁寧に見取っていることなど、小学校においても活かせる観点が見えてきます。小学校の教員が気付いたことをそれぞれの指導にどう反映していくか、園での指導をどう受けついで活かしていけるかを考えます。



ポイント2の具体的な取組

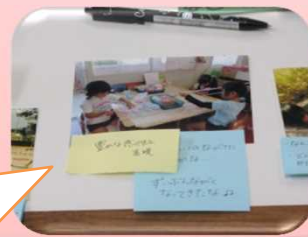
○ある日の合同研修会の様子

写真を活用し、幼稚園と小学校の教員で幼児の学びについて考えます。



保育の写真をもとに、その場面の子どもの様子や思いを考えます。幼稚園の教員が具体的に子どもの姿を伝えることで、小学校教員の幼児理解が深まりました。

写真で見られる子どもの姿は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のどの姿に当たるかを協議します。



幼・小の教員
4～5人の小
グループで
考えます。

幼稚園の各年齢ごとに学
びの姿をまとめていきます。

【合同研修会より】

幼児期をどのように育ててきているかについて幼稚園の教員と一緒に考えることで、小学校の教員も幼児の学びの見取り方や細やかな支援の仕方、環境構成について共通理解することができます。また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして子どもの育ちを捉え、接続期のカリキュラムを作成したり、授業のあり方について考えたりして、幼小の滑らかな接続を目指しています。

8

子どもが主体的に学習するための環境づくり

☑子どもが意欲をもって取り組めるよう、全校体制で取り組んでいます

子どもの確かな学力を育むことで、子どもが意欲をもって学び続ける姿を目指しています。そのための指導法の工夫を教員全員の取組として行っています。

ココを学びたい！

子どもの課題を教職員全員が共通理解をし、課題を解決するための子どもの取組について工夫をしています。さらに、その取組が継続していくように定期的に助言を行っています。



ポイント1

教職員全員が共通理解して取り組む組織体制

学校教育目標に向けての取組

・学校教育目標のもと、目指す子どもの姿の達成に向けて「チャレンジ100推進部会」、「学ぶ力向上部会」、「言語環境充実部会」の三つの部会を組織しています。

ポイント2

自ら学び続けたいくなる取組の設定

自分の考えをもち、自ら学び続ける子どもの育成

・三つの部会が、子どもたちがあきらめずに何度もチャレンジしたくなる取組を行っています。

湖南省立下田小学校	
学級数	14学級
生徒数	275名



○学校の特徴

「授業での取組」

誰もが安心して学習に取り組める学習集団・学習に取り組む意欲・関心を高め合える学習集団の育成を図っています。また、「付けたい力」を明確にする、ことばを活用する力を付ける、「書く」活動を重視する、自分の考えを記すノート指導を行う等、自分の考えをもち自ら学び続ける子どもに育てるための授業改善を行っています。

「学校全体の取組」 全職員の共通実践

- | | |
|------------|---------------------------|
| ○あいさつと返事 | …先言後礼の推奨、先に、立ち止まって、笑顔で |
| ○チャレンジ100 | …目標設定をしっかりと |
| ○言語感覚 | …「ことばの宝石箱」の暗唱、詩作、五七五作品づくり |
| ○立腰タイム | …毎朝・昼1分・各授業の始め10秒に実施 |
| ○読書・図書室の利用 | …年間一人150冊、図書室の本を貸し出す |
| ○掃除 | …静かにだまって掃除 |

ポイント1の具体的な取組

○学校教育目標: あきらめずに何度でもチャレンジする児童の育成



自分の考えをもち、自ら学び続ける子になるためには、どうすればいいかなあ。

進んで自分の考えを表現することができる子にしたいなあ。



一人ひとりの確かな学力の向上を目指した指導法の工夫

研究推進部会

「チャレンジ100推進部会」

めあてをもち、進んで学びに向かう子どもの育成

「学ぶ力向上部会」

基礎・基本の習得と、一人ひとりの確かな学力の向上

「言語環境充実部会」

図書や「ことばの宝石箱」に親しみ自ら学び続ける子どもの育成

三つの部会で計画 → 全教員で共有・実践 → 学年・部会で取組の検証 → 取組の改善

ポイント2の具体的な取組

「チャレンジ100」の目標設定と実践

子どもたちが毎日続ける取組を、担任と相談して決めます。
例・お手伝い
・体力づくり
・あいさつ 等



子どもの実態に合わせて、取組について助言します。

30日と60日取り組んだときに活動を振り返り、担任と内容や取組について相談します。100日間続けたら、達成。新たなチャレンジを行います。



自分で決めたチャレンジだから、続けられるよ。先生も応援してくれるから、がんばれるよ。



書く活動の推進

「書くこと」の力を伸ばしたい。まずは、書くことに慣れさせよう。



日常において
・授業で学んだことについてまとめとふりかえりを書かせています。
・連絡帳など、授業以外でもいねいに字を書くように指導しています。



視写調査(1学期に1回)
・一定の時間内に文章を書く調査を行っています。文字を書く速さといねいさを子どもたちに意識させて行っています。

子どもの書くことへの抵抗がなくなってきています。文を書くことをあきらめる子、書かない子が減ってきました。



「ことばの宝石箱」による下田っ子検定

湖南省教育委員会が3年生以上向けに作成した「ことばの宝石箱」を活用し、暗唱活動を行っています。1, 2年生は、「ことばの宝石箱」から28作品を選びプリントしたものをを使って、暗唱活動を行っています。

42の詩や俳句等を6回に分けて、校長先生の前で暗唱します。暗唱を通して子どもたちは、積極的に美しい言葉や文章に触れています。

認定証をもらおうらしいよ。どんどん覚えて、校長先生に聞いてもらおう。



9

家庭学習の習慣化を目指した取組

 主体的な学習を目指して取組を行っています

家庭学習で復習や予習を着実にを行うためには、学びの振り返りと学習計画の作成が大切です。全ての生徒が自己管理能力を身に付け、学ぶ力の向上を図ることができるよう、学校全体で取り組んでいます。

ココを学びたい！

ポイント

家庭学習の内容を毎日学校で考える時間の確保

学習に自ら取り組めるようにするための工夫

- ・帰りの時間に、生徒が家庭学習の計画を毎日作成しています。
- ・朝の時間に、家庭学習を踏まえた一日の学習の準備を行うようにしています。
- ・朝の時間と帰りの時間を有効に活用し、子ども自身が学習に自然と向き合える環境づくりに取り組んでいます。

草津市立老上中学校では、生徒が家庭学習を継続して行えるように、毎日の帰りの会前に行っている「考動タイム」の時間で、その日の家庭学習スケジュールを自ら立てています。教員の点検や声掛け等の支援もあり、家庭学習の取組状況により影響が見られています。



草津市立老上中学校	
学級数	18学級
生徒数	481名



○学校の特徴

「授業での取組」 学ぶ力を伸ばす授業づくり

- ・生徒個々が「自主学習ノート」に取り組むとともに、「考動タイム」の活用により、毎日の学習リズムの定着や「確かな学力」のもととなる学ぶ意欲の向上を図っています。
- ・適切に授業のめあてを設定し明示するとともに、授業の最後の振り返りをしっかりと行うようにしています。その際、生徒自身が「書くこと」を意識して、学習のポイントを再確認できるようにしています。

「学校全体の取組」 共通実践ができる体制づくり

- ・「よりよい生き方をめざし、考動する生徒の育成～とともに考え、内からの高まりをめざす道徳教育の推進～」をテーマとして、新学習指導要領の実施に向けた「考え、議論する道徳について全校で研究を進めています。
- ・G-OJTにより日常の職務を通して職員間の情報交換を促進し、職員の資質向上・職務内容の充実を図っています。
- ・ICT機器を活用した授業改善に取り組み、わかりやすく、魅力ある授業づくりに努めています。

平成29・30年度 道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業（文部科学省・県教育委員会委託）

ポイントの具体的な取組

○「考動タイム」を活用した家庭学習の推進

「考動タイム」とは、毎日の学習内容を振り返るとともに、家での学習への接続を図る取組のことです。

- ・帰りの会前の5分間で1日の学びを確認しながら家庭学習の計画を立てています。
- ・朝の会の10分間で自主学習ノートなどにまとめた家庭学習の内容をもとに、1日の学習のめあてをもつようにしています。



【家庭学習計画→実施の流れ】

●帰りの時間の考動タイム

今日の授業内容を振り返りながら、家庭学習の計画を立てる。



家庭学習の計画を立てやすいように、学習のしおりも活用しています。

【家庭学習の計画例】

○予習

- ・次の時間に学習する語句や英単語調べ
- ・教科書を読み、わからないことをチェック

○復習

- ・授業の振り返りや重要語句の確実な習得
- ・授業で学んだ問題の再挑戦
- ・興味をもったことをより深く学習

【取組の成果】

平成30年度全国学力・学習状況調査結果
(生徒質問紙回答)より

- 自分で計画を立てて勉強している時間が1日当たり2時間以上と回答した生徒の割合は4割を超えています。
- 「家庭で学校の予習・復習を行っている」に肯定的に回答した生徒の割合は、県や全国平均を上回っています。

【考動タイムを振り返って ～教師から見た手ごたえ～】

個に応じて家庭学習を習慣づけることが、学校としても家庭としても大きな課題でした。毎日、考動タイムで家庭学習の内容を自ら見つけ、考え、取り組んでいくことによって、予習や復習の実施率向上とともに、不得意分野にアプローチするなど、生徒一人ひとりが目的をもって学習に向かう様子が見られるようになってきました。



家での学習

●家庭学習の習慣化



学校での学習

●朝の時間の考動タイム

自主学習ノートを確認するなど、これまでの内容を振り返り、今日一日の学習のめあてをもつ。



朝の考動タイムの様子

【小中連携で重視した力の育成に向けて】

老上中学校では、管内の小中学校と連携して、「読み込む力」や「思いを表現する力」の醸成を重点目標にあげ、主に読書活動や漢字検定などに取り組んでいます。朝の考動タイムでは、家庭学習の振り返りだけでなく、時期に応じて、朝読書や漢字等の基礎基本の習得に励んでおり、子どもたち自身もこれらの内容を家庭学習に取り入れています。



朝読書の様子



漢字検定に向けて

10

特別活動を通して
主体的・対話的で深い学びの実現

✓ 「熱い思いを持ってたくましく生きる力」
の育成を目指し、取り組んでいます

「学級活動(1)」や全校集会によって、学級や学校をよりよくなる活動に熱い思いを持って主体的に取り組もうとする意欲を育成し、主体的・対話的で深い学びの基礎を育てています。

ココを学びたい！

ポイント 特別活動で学びの土台をつくる

学校全体で取り組む「学級活動(1)」

- ・学校の課題に直結した校内研究の推進
- ・経験豊かな教員の指導力を若手教員へ継承し、学校の指導力アップ
- ・「子どもに付けたい話す力・話し合う力・聴く力・話すときに使う言葉」の設定

全校児童集会「ニコニコ集会」

- ・毎月第2木曜日の朝の会の時間を活用
- ・委員会活動の取組紹介や全校への呼びかけ
- ・各学年の発表
- ・本部委員会からの出し物 など



特別活動を通したよりよい生活や人間関係づくりは、学力と相互に関連します。

東近江市立御園小学校	
学級数	18学級
児童数	458名



○学校の特色

子どもの主体性や自治の力等を高める取組
学級活動(1)を窓口とした校内研究の充実
全校児童集会「ニコニコ集会」
行事をPDCAで考える職員研修

基礎学力向上の取組

漢字音読名人と各学年の取組
視覚支援の工夫(板書、見やすいノート、既習内容の掲示)

自立をうながす生徒指導の充実

凡事徹底(あたりまえのことをあたりまえにする)
家庭訪問により保護者とつながる



※平成29年度 自尊感情・学びの礎育成プロジェクト事業(県教育委員会人権教育課研究指定)

ポイントの具体的な取組

○「学級活動(1)」を窓口とした校内研究の充実

研究主題

熱い思いを持ち、たくましく生きる力を身に付けた子どもの育成

子どもたちに身に付けさせたい「友だちと関わろう・支え合おうとする力」「挑戦しようとする力」を育成することが、学校の課題解決につながると考えます。



経験豊かな教員の指導力を若手教員へ継承し、学校全体の指導力アップを目指しています。

1学期

提案授業を行い、学級づくり・授業づくりについて、学校としての方向性を共通理解しました。

2学期以降

公開授業によって、児童の実態に合った「学級や学校の生活づくり」について実践研究を進めます。

他教科等でも話し合う力を積極的に活用しています。



「付けたい力」の明確化

発達段階に応じた「話す力・聞く力・話し合う力」について「付けたい力」を設定し、主体的・対話的で深い学びを通じた話し合い活動を実践する。

「話し方」のスキルの定着

特に意識させたい「話型」については、教室に掲示し、実践での活用を目指す。

学級会だけでなく、様々な学習の場面で活用しています。



児童理解を深める

「学級アセスメントテスト」を活用し、児童情報交流会の実施により全職員で全校の子どもを育てる。

○月1回の全校児童集会

昨年からは毎月第2木曜日の朝の会の時間を活用し、全校児童集会「ニコニコ集会」を実施しています。

委員会の話し合いでも、前向きな内容の提案が増えました。



ニコニコ集会で「国際人権週間」について提案する人権委員会

集会の内容

- ・委員会活動の取組紹介・全校での取組の呼びかけ
- ・各学年からの発表(取組紹介)
- ・本部委員会による出し物 等

○行事をPDCAで考える職員研修

・経験年数や担任する学年が重ならないように研修のグループを分けて協議することで、一人ひとりの考え方を深めたり広げたりする機会になっている。

・一つひとつの行事だけでなく、行事によって育てる子どもたちの育ちを、小学校の6年間のスパンでとらえる。

・担任する学年の子どもだけでなく、全校の子どもにどのように関わっていくのかについて共通理解を図る。



全職員で全校児童に関わっていきます！

